



History

「桜梅桃李」という言葉が好き!

それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。

一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく

「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

まらまら

第35号

今、ひとりひとりが…

男女共同参画 ネットワーク会議会員交流会

今輝いている男と女(ひととひと)に聞く!
~その活動と取組について~



今年度の交流会は、男女共同参画に関して積極的な取り組みをしている企業・グループによる事例発表をお聞きしようと、株式会社ミルボン、いが料理クラブ、忍にん体操普及会のみなさん

にお話をいただきました。

株式会社ミルボンは、従業員の約5割が女性、そのうち既婚の方が約8割を占めることから、子育て中の女性が働き続けられるよう、子どもが5歳になるまで取得できる育児休暇制度や短時間勤務制度を整備されています。他にも1時間単位で時間休が取れる時間休制度や、1ヶ月に6日ノー残業デーが設けられるなど、働く人にとって優しい職場作りを目指されていることが、よく伝わってきました。

いが料理クラブは、公民館で行われていた「男の料理教室」の受講生が立ち上げた男性グループで、月1回程度集まって料理を作る活動をされています。代表の樋口さんは在職中、「家事は女性の仕事」と、全く家事をしなかったそうです。退職後に料理教室に参加し、料理に興味を持つようになり、最近は料理クラブで作った料理を家で振舞うこともあるということでした。また、料理をきっかけに、家事の大変さを実感したということです。

最後に、忍にん体操普及会のみなさんにより、「忍にん体操 介護予防バージョン」のひとつひとつの動きを解説していただき、参加者全員で体操をし、リフレッシュしました。



編集・発行

伊賀市人権生活環境部人権政策・男女共同参画課
〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 500 番地
TEL(0595)22-9632 FAX(0595)22-9666

編集

伊賀市男女共同参画センター情報紙「きらきら」
編集スタッフ 岡 久美子・竹山 佐代子・的場 裕子
宮田 美智子・三山 佳代子

(平成 27 年 2 月 15 日 発行)

パパと子どもの 料理教室

11月29日
1月24日
実施



お父さんと子どもたちを対象とした料理教室を開きました。例年申し込みが多く、今年は2回開催しました。

今年のメニューは、巻きずし、裏巻きずし、花ずし、白玉粉と薄力粉を使った“へらへらだんご”、そうめんのかきたま汁を作りました。

お父さんも子どもたちも一生懸命で、家でも料理を作る機会を持ってもらえるといいなと思います。



男女共同参画ネットワーク会議研修会

11月8日(土)

三重県男女共同参画センター
「フレンテみえ」にて



今年の研修会は、企業の取り組みについて学ぼうと前(株)資生堂代表取締役である岩田喜美枝さんが講演される三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の男女共同参画フォーラムに参加しました。

『女性もっと活躍できる!～より企業を元気に、男女とも人生を豊かに～』と題した講演会のなかで、企業が発展していくには、労働力人口の減少や良質な人材の減少を補うため広い人材プールからの人材の選抜や、女性である、子どもがいるなどの理由で活躍できていない社員が活躍できるようにすること、また人材の多様性を企業の力にすることが必要で、そのため女性の活躍が求められること、そして女性が活躍するための企業の課題として、仕事と育児の両立支援策の質の転換(柔軟な就業条件の整備や男性の仕事と育児の両立)、ワーク・ライフ・バランスの実現(特に働き方の見直し)、女性の育成や登用のためのポジティブアクションが必要である、と語られました。

ポジティブアクション=男女間格差改善のための積極的措置



日本女性会議2014札幌に参加しました!

男女共同参画に関する国内最大級のイベントである「日本女性会議」は、今年31回目の開催で「未来の景色は、わたしたちが変える。」がテーマでした。そこには、それぞれが自らの抱えている課題に向き合い、その解決策を探り、真の男女共同参画社会の実現に主体的にかかわろうという想いが込められていました。

内閣府から「日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について」の報告の後、各分野で最先端の取り組みや研究をしている講師による10の分科会が開かれ、NPO法人ファザーリング・ジャパン代表、安藤哲也氏の「ワークもライフも子育ても!これからの男子の生きる道」の分科会に参加しました。

男女を問わず家事・育児・介護に関わる方が増えていますが、昔ながらの慣習や固定的な性別役割分担意識が根強く残っているのも事実です。「パパが変われば、社会が変わる」「イクボスが増えれば、社会が変わる」というメッセージを掲げ、安藤さんは「イクボス・プロジェクト」を始動しました。父親が子育てを担うことの必要性とともに、男性も女性もワーク・ライフ・バランスを意識した豊かな人生を送ることについて考えました。

また、2日目の講演では、男社会の風潮が色濃く残っていた分野で女性の先駆者として活躍してきた交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさんや、柔道家の山口香さんの強い信念に心を揺さぶられました。

変わるべきは私たち自身であり、私たちの身近な人たちに、男女共同参画社会という希望を語り続けていきたいと、決意を新たにしました。



(男女共同参画係)

TOPICS part 13

イクボス

○「イクボス」とは?

「イクメン」はよく聞くようになりましたが、「イクボス」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。

この言葉が聞かれるようになってまだ2年に満たないぐらいですが、「イクボス」を増やすことがワーク・ライフ・バランスの実現を加速させると言われています。

「イクボス」とは、部下のワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らもワーク・ライフ・バランスを実現させている経営者や管理職のことを言います。

○働きやすさのカギを握る

なぜ、「イクボス」が今、求められているのでしょうか。それは、家庭生活と仕事の両立が、なかなかできない現実があるからなのです。女性の活躍を促進するためには、男性の協力が不

可欠です。が、例えば育児に関して、育児休業の取得や、短時間勤務制度の利用を希望する男性が30%超える(2008年厚生労働省調査)にも関わらず、実際に取得した男性は1.23%(2012年厚生労働省調査)に留まっており、希望通りに制度を利用できない背景には、男性の育児支援に対し、周囲の抵抗感があると考えられます。

この状況を、「イクボス」が変えていけると期待されているのです。自身がワーク・ライフ・バランスを実現させているからこそ、部下のライフも大事に考えられる。そうなれば部下の意欲が上がり、働きやすい環境になり、業績も上がる、と期待されているのです。



(男女共同参画係)